

## 国語問題例 (六〇分)

### 問題一

次の文を読んで、問一～問八に答えなさい。(配点 六〇点)

外国を訪れるために成田空港に行ったら、そこにいる人のほとんどの人がマスクをしているという異常な光景。2009年の5月。新型インフルエンザ騒ぎが正に大きくなっていった時のことである。

で、行った先の外国はどうだったかというマスクを全然していない。アジアはそれなりだが、ヨーロッパなどは全くしていない。ア  
といていい。その

新型インフルエンザへの対応も、パリあたりでは飛行機を降りたときに箱が置いてあって中に発熱時の連絡先の紙があるだけ。気がつかないので誰も取ってもいかないう「ゆるさ」だった。

他国ではこんなに落ち着いているのに、日本は騒ぎ過ぎで恥ずかしいというような文章を、当時見かけたものだった。「大変だ」と脅したり「騒ぎ過ぎ」と水をかけたり、マスコミもコロナ変わって忙しかったのであるが、その状況を少し引いた目で感じたのは「これが国の文化の違いというものなんだな」ということだ。

一義的にはインフルエンザの話はイの問題だ。他の国の状況も科学知識もインターネットのおかげで、普通の人でも簡単にアクセスできるようになった。世界的な均質化の傾向からは、このような反応も均質化してもおかしくない。

A、この時の日本と外国のマスク率には明らかに差があった。マスコミが水をかけ始めても火をつけたときほどは早く社会は反応せず、チン・セイ化したのは次のシーズンだ。

B、「水がコップに半分ちようど入っている」というのが科学とするなら、それを見て他の人に「もう半分しか残っていない」と伝えるか「まだ半分ある」と伝えるかが文化なのだろう。

荒っぽく言えば、日本の文化―というか日本人が一番恐れるのは、実際の「危険」ではなくそれが「未知の危険」―さらにいえば「未知の病気」だということの方だという気がする。単なる「臆病」ではないのは、地震や台風に対する日本人の肝の据わり方に外国人が驚くのを見てわかる。普通の季節性インフルエンザも病気だが、そちらは「**C**」―だから恐れない。しかし実際には死亡率の低かった新型インフルエンザに対し、季節性インフルエンザが原因で命をなくす人は日本でも毎年一人ぐらいいるといふから、**1**合理性だけからいえばおかしな話だ。

しかし、繰り返しになるが、だから日本のマスクは恥ずかしいといっているわけではない。家に入るとき土足で上がらないのも日本の文化なら、未知の空気感染症がはやった時にマスクをしたくなるのも日本の文化だ。

ニューヨークタイムズ電子版が「マスクに手洗い、日本は偏執狂」と書いたそうだが、「未知の病気」でなく「未知の敵」の脅威を感じたときの米国の対応も、米国以外からは「騒ぎすぎ」に感じられていた。しかしそれも、たぶん米国の文化と考えれば理解できなくもない。「未知の脅威」に対して **ウ** 反応するのは人間心理の持つている基本的な性質だが、「どの種類の脅威」に対しより強く反応するかは文化的なバイアスによるのではないだろうか。

**2**科学的に言うなら文化というのは短期間での合理性を超えた長いレンジの合理性を維持するためのシステムというところさえもできる。人間はつい短期間での合理性に流されやすい。明治時代に西洋から「合理性」が入ってきたとき「鎮守の森」など開発禁忌の土地は非合理だからと、開発したら数年後に土砂崩れとか不作が起こったというような話がある。

それは「鎮守の森」が、今の科学で見れば表土の保持など多くの立派な長期の合理性を持っているからだ。しかし、当時はそれをエコロジーなどの言葉で説明できなかったから、「やつぱり崇りだ」とし、文化というシステムで維持してきたわけだ。

高温多湿で人口密度も高いという日本の国土条件からして、セイムケツ志向には十分な長期の合理性を持つ。だからそれを「ケガレ」といった文化的システムで維持してきた。

逆にいえば今回の3・11での放射能のように過去に。ルイレイのない―真に「未知の脅威」に対しては、日本でもそうだが海外でもそういう文化が確立されていない。だからかもしれないが、放射能汚染に対するうろたえぶりについては、報道など見ても

むしろ海外の方がひどかったともいえる。そのことから単に日本人だけが、「未知の脅威」に弱いわけではないのがわかる。

さらに言えばニューヨークタイムズにはあきれられてしまった日本だが、米国のCDC（疾病予防管理センター）をはじめ、世界中の **エ** 関係者は日本にたまった貴重なデータに高い関心を抱いている。現代の高度な科学技術を背景にパンデミックの過程を、これほどのバックアップ体制と国民の合意のもとにつぶさに観察できたのは初めてだという。

**D** 、日本自身にとつてもこの経験は貴重だ。日本は現場は優秀だが、初めての事態に適切に対応出来る胆力と想像力をもった指揮官は少ないといわれる。米国ならばつつけ本番で見事な危機管理ができるかもしれないが、日本にとっては予行演習が重要。3・11ではまさにその問題点がロ **d** テイした形となった。

しかし逆にいえば予行演習さえできていれば、適切な対応を磨いていけるのが日本だ。新型インフルエンザ騒ぎでさまざまなノウハウが現場から上がり、それはいつか来ると言われている人型鳥インフルエンザなど「本当の強毒性パンデミック」の時に役に立つ。それが国としての病気に対する抵抗力を増すなら、まさに2009年の新型インフルエンザ騒ぎは日本という国にとっての生ワクチンだったとも言える。副作用としての「マスクフィーバー」などガ **。マン** の範囲だろう。

**4** もっと抽象的な話をすれば、生物が単細胞分裂という簡単な方法にとどまらず「性」という高コストなシステムを採り入れたのは、それによって生まれる **オ** と変化により、ウイルスなどにより種全部が一度にやられることを防ぐというメリットがあったからという話もある。家畜などでよく知られているが、均質な集団というのは病原菌で簡単に全部がやられてしまう。

**E** 、日本のように騒ぐ国も騒がない国も、文化の多様性という意味でどちらもあってもいい。それによって人類全体としては必要な多様性が得られると思えば、日本のマスクも恥ずかしいことではない。

（坂村 健『不完全な時代―科学と感情の間で』より。ただし、見出し等を省略している。）

注 バイアス 偏り、傾向。

3・11 2011年3月11日に発生した東日本大震災。

パンデミック 感染症が世界的規模で流行すること。

問一 傍線部 a ～ e に相当する漢字を含むものを、それぞれ下の選択肢から一つ選び、番号で答えなさい。

a チンセイ

- ① 少子化対策のセイサクが急がれる
- ② 日本は議員内閣セイをとる
- ③ 当面は事態をセイカンする
- ④ 反乱軍はすみやかにセイバツされた
- ⑤ セイハンザイが増加する傾向にある

b セイケツ

- ① コウケツな人柄
- ② ケツエン関係を調べる
- ③ 車両をレンケツする
- ④ 議題のケツギを行う
- ⑤ 入学生のケツイン補充を行う

c ルイレイ

- ① ルイケイを計算する
- ② ルイシン税率を適用する
- ③ マンルイで打者をむかえる
- ④ データからルイスイする
- ⑤ 多くのデータをルイセキする

d

ロテイ

- ① 職務規定にテイシヨクする
- ② 通商協定をテイケツする
- ③ 交響曲を皇帝にケンテイする
- ④ 総理大臣のカンテイに大臣が集まる
- ⑤ 審議会で用語のテイギを行う

e

ガマン

- ① 勝負の結果にマンゾクする
- ② マンガを読むことが趣味
- ③ 定期預金がマンキになる
- ④ 病気がマンセイ化する
- ⑤ マンネン筆で手紙を書く

問二

ア

オ

に入る適切な語句を、それぞれ次の選択肢から選び、番号で答えなさい。

- |   |       |      |       |       |       |
|---|-------|------|-------|-------|-------|
| ア | ① 対照  | ② 比較 | ③ 対応  | ④ 光景  | ⑤ 問題  |
| イ | ① 知識  | ② 危険 | ③ 科学  | ④ 社会  | ⑤ 世界  |
| ウ | ① 過剰  | ② 正常 | ③ 弱い  | ④ 強い  | ⑤ 好意的 |
| エ | ① 工業  | ② 食品 | ③ 衣料  | ④ 貿易  | ⑤ 防疫  |
| オ | ① 均質性 | ② 病気 | ③ 食料品 | ④ 多様性 | ⑤ 副作用 |

**問三**

A

B

D

E

に入る適切な接続詞を、それぞれ次の選択肢から選び、番号で答えなさい。

- ① また ② しかし ③ たとえば ④ だから ⑤ ちなみに ⑥ ただし ⑦ しかも

**問四**

C

- ① 旧型の病気 ② 普通の病気 ③ 未知の死亡率 ④ 既知の病気 ⑤ 低率の死亡率

**問五**

傍線部1「合理性だけからいえばおかしな話だ」とあるが、どうしてそう言えるのか、その理由を説明したものとして最も適切なものを、次の選択肢から選び、番号で答えなさい。

- ① 季節性インフルエンザでも多くの死者が出ているのに、新型インフルエンザの方が危険であると思ひ込み、過剰に危険視しているから。

- ② 季節性インフルエンザの死亡者が一人人ぐらいいるといふ事実がわかっているのに、新型インフルエンザを過剰に警戒しているから。

- ③ 季節性インフルエンザの方が新型インフルエンザよりも死亡者が多いのに、その事実を否定し、新型インフルエンザの方を余計に恐れているから。

- ④ 季節性インフルエンザの方が新型インフルエンザよりも死亡率が高く、死亡者もかなりいるにもかかわらず新型インフルエンザを異常に恐れているから。

- ⑤ 季節性インフルエンザと死亡率や死者数で比較するのではなく、新型インフルエンザが未知であるということと異常に恐れているから。

## 問六

傍線部2「科学的に言うなら」とあるが、どういう点が科学的なのか、最も適切に説明しているものを、次の選択肢から選び、番号で答えなさい。

- ① 合理性が入ってくる以前の文化を、文化的なバイアスであるとしている点。
- ② 習慣や心理ではなく、合理性の観点でその性質や内容を定義している点。
- ③ 短期的と長期的の観点に分けて、その長所と短所を検討している点。
- ④ 明治時代に西洋から入ってきた「科学性」を尊重した立場で言っている点。
- ⑤ 人間心理や文化的なバイアスの観点から、問題をとらえようとしている点。

## 問七

傍線部4「もつと抽象的な話」とはこの場合、どういうことを指しているのか、次の選択肢から最も適切なものを選び、番号で答えなさい。

- ① マスクファイバーの背景には、ウイルスなどにより種全体が減びることを防ぐという現実的な意味があること。
- ② マスクファイバーという現象は、生物学に根差した文化の多様性という理論で考えればそのメリットがよりよく理解されること。
- ③ 新型インフルエンザといった具体的な感染症の次元ではなく、ウイルスによって種全体が全滅するといったより現実的な次元としてとらえられること。
- ④ 新型インフルエンザに対する予行演習は、生物が「性」という高コストなシステムを取り入れてウイルスから種全体を守るうえで必要であること。
- ⑤ 新型インフルエンザに対する具体的な対応は、生物の多様性による病原菌への対応という理論的なレベルでとらえることのできる点。

## 問八

次の中から、本文の内容とは合致しないものを二つ選び、番号で答えなさい。

- ① 新型インフルエンザに対するマスクフィルターは、日本の文化的システムのひとつと考えられるが、一方で、地震や台風に対し冷静に対処しているのは矛盾しており、不可解といえる。
- ② 文化的システムというのは、「鎮守の森」といった、一見合理的な説明を拒んでいるかのような外面をもつが、じつは科学的な合理性が内在しているシステムということができる。
- ③ 日本人が未知の病気に対して過剰な反応を示すのは、一見合理性に欠けた集団心理といえるが、米国人が未知の脅威に対し過剰反応するのも同様であり、何を恐れるかという文化の相対的な相違と考えることができる。
- ④ 未知の空気感染症がはやった時にマスクをしたくなるのが日本の文化であるが、それは日本の風土とも関係する長期的な合理的行動として理解することもできる。
- ⑤ 筆者は、新型インフルエンザのマスクフィルターをまず文化の問題ととらえ、そこから文化の多様性が生物学的なメトリットを生むという、科学的な真実を明らかにしている。



## 問題二

次の文は、ある新聞の社説です。これを読んで、後の問一、二に答えなさい。(配点 四〇点)

宅配サービスで、家庭に配送しても留守のために出直す再配達問題が深刻化している。人手不足にもかかわらず膨大な労働力が無駄になっている。二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の排出量や交通渋滞の悪化など影響は広範囲におよぶ。

宅配会社と住宅、不動産、通販の企業、地方自治体が知恵を出し合い、一回で配達を終えられる生活インフラを築くべきだ。

国土交通省によると、今年四月の宅配便の再配達率は約十五%だった。2015年の数字だが、再配達に年間9万人の労働力が使われ、CO<sub>2</sub>の排出量の増加は年四十二万トンにのぼる。

インターネット通販の拡大で、荷物の数は確実に増加の一途をたどる。共働きや単身世帯も増えており、再配達の問題が解消しなければ宅配サービスの維持が難しい状況になりかねない。

まずは、戸建て共同住宅に郵便ポストと同じように、不在時でも荷物を受け取れる宅配ボックスを備えることだ、マンションの共用設備はすぐに満杯になる場合が多い。三菱地所の子会社は各戸の玄関前に専用ボックスを設けたマンションを開発した。再配達を確実に減らすには、マンション全戸への設置を考えてもよい。共働きの割合が高い福井県あわら市と学生が多い京都市の取り組みが参考になる。日中に不在が目立つ両市は、パナソニックなどと共同で住宅に宅配ボックスを設置する実験をした。あわら市では再配達率が四カ月で五割から一割以下に激減し、二百二十三時間分の労働時間の削減につながった。

受け取る側も配達時間に合わせて帰宅するなどのストレスから解放されたという。他の自治体も取り入れてはどうか。自宅以外で荷物を受け取れる場所を充実させるのも有効だ。国交省は宅配ボックスのスペースを容積率に算入しないことにした。オフィスビルや病院がボックスを設置しやすくなる。

受け取る人が再配達のコストを負担すべきだという意見もある。だが、他人から届いた荷物の追加費用を誰が払うのかは調整が必要だ。宅配会社や通販会社が自宅やコンビニエンスストアなどで一回で受け取った人にポイントを与えるなどインセンティブが

働く仕組みもひとつの考えだ。

働き方改革が叫ばれる今こそ、再配達に伴う無駄と待ち時間を減らし持続的な社会につなげたい。

〔日本経済新聞社二〇一八年九月六日 社説〕から

**問一** この文のタイトルとして、最も適切なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- ① 宅配サービスの問題点と解決策
- ② 宅配会社に求められる再配達を減らす取り組み
- ③ 宅配サービスの困難と限界
- ④ 再配達のない生活インフラを整備しよう
- ⑤ 再配達問題を改善した自治体の取り組み

**問二** この文の内容を、一五〇字以上二〇〇字以内で要約しなさい。要約とは、書かれているテーマと筆者の考えの要点を、簡潔にまとめることです。どういうテーマについて、何を言おうとしているのかを、まとめてください。

## 国語問題例の解答

### 問題一 (六〇点)

問一 a ③

b ①

c ④

d ③

e ④

問二 ア ②

イ ③

ウ ①

エ ⑤

オ ④

問三 A ②

B ③

D ①

E ④

問四 ④

問五 ⑤

問六 ②

問七 ⑤

問八 ①

⑤

### 問題二 (四〇点)

問一 ④

問二

(答案例)

宅配サービスの再配達問題が深刻化している。膨大な労働力の無駄だけでなく交通渋滞の悪化など、その影響は大きい。まず宅配ボックスを普及させることが重要で、すでにいくつかの自治体で成果が出ている。また、自宅以外で荷物を受け取れる場所を充実させるためのポイント付与などの制度も有効だ。宅配会社だけでなく、不動産や自治体など社会を挙げて、一回で配達を終わらせるための持続的な生活インフラを築くべきだ。